

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	2 農林水産
----	--------

評価責任者	所属	経済局 農林水産部 中山間地振興課
	氏名	課長 桐野 勝

政策	4 多彩な地域資源をみがきあげオクシズ等の地域の活力強化を推進します
----	------------------------------------

施策	1 地域資源を活かした新しい産業の創出
----	---------------------

施策の目的	地域が主体となった新しい事業をおこし、地域の維持と振興に貢献し、延いてはオクシズへの移住促進、交流人口の増加を目指します。
-------	---------------------------------------------------------------

（1）総合評価

総合評価	令和元年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	専門家派遣による商品開発等は目標どおり実施できたものの、地域主体の新規事業の認定には至らなかったため。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	中山間地ビジネス展開支援事業により検討を行った事業を、オクシズ元気ビジネス支援事業に認定して支援を行うなど、施策を効果的に連携させ、地域の産業振興を行うことができたため。
	令和3年度	—	理由	—
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（％）	評価	目標値の算出根拠	
			1	2	0	0.0%	c		
地域主体の新規事業認定件数	2件認定	2	2	2	100.0%	a	前身の「おらんとこのこれ一番事業」では、毎年度1件の新規認定を行っていた。元気ビジネス支援事業においては、外部からの新規参入を促していくため、年間2件を目標とする。		
		3	2	—	—	—			
		4	2	—	—	—			
		1	5	5	100.0%	a			
	派遣を実施したことによる新商品開発等、事業化件数	5件	2	5	5	100.0%		a	これまでの派遣実績件数をもとに、新商品開発等、事業化件数を5件とする。
			3	5	—	—		—	
			4	5	—	—		—	
			1						
指標以外の成果	2								
	3								
	4								

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
オクシズ元気ビジネス支援事業	中山間地域の資源を活用し、住民自ら地域の活性化と集落の維持を実現する。オクシズ各地の事業化に向けた計画策定の取組みを支援するとともに、認定地域の経済的取組を支援する。	1	1	10,000	0	0	0.5	0.0	0.0	○
			2	8,000	0	3,995	0.5	0.0		
			3	—	—	—	—	—		
			4	—	—	—	—	—		
中山間地域ビジネス展開支援事業費	経営戦略・マーケティング・IT等の各種専門家を派遣することで、地域団体等による新商品開発や事業計画策定等を支援する。	2	1	3,612	0	3,273	0.3	0.0	0.0	○
			2	2,920	0	1,480	0.3	0.0		
			3	—	—	—	—	—		
			4	—	—	—	—	—		
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	おらんとここれ一番事業において、補助金終了後に事業が縮小・終了となってしまうケースがある。	認定したオクシズ元気ビジネス事業について、継続的な事業となるよう、補助要件の見直しを行うとともに、事業計画作成段階からのきめ細かな支援を実施していく。
令和2年度	オクシズ元気ビジネス支援事業等の相談や検討しても、長期的な担い手の確保の問題や、地域資源の活用・採算性等を勘案した事業計画の策定についての課題から、申請や事業の着手にいたらないケースがある。	国・県等と連携し、事業化を進めたい団体と、意欲やノウハウを有する企業等とのマッチング支援や、中山間地ビジネス展開支援事業及び他の起業・創業支援施策を活用し、事業計画の策定を支援していく。
令和3年度	—	—
令和4年度	—	—

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	2 農林水産
----	--------

政策	4 多彩な地域資源をみがきあげオクシズ等の地域の活力強化を推進します
----	------------------------------------

施策	2 地域資源を活かした交流の推進
----	------------------

施策の目的	オクシズは様々な地域資源を有していますが、トイレや交通手段等の基本的なサービスが不足しているため、オクシズに訪れる機会を失っており、その地域資源を十分に活かすことができていません。また、ユネスコエコパークに登録された南アルプスやその中山間地においては、さらにその魅力を体験できる取組を行う必要があります。 そのため、トイレ整備やバス等の基本的なサービスの強化や環境を活かしたスポーツの振興に取り組み、地域資源をさらに活かすことで、オクシズへの訪問者増を図ります。
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価責任者	所属	経済局 農林水産部 中山間地振興課
	氏名	課長 桐野 勝

（1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	夏の猛暑や週末の天候不順、新型コロナウイルスの影響など外的要因の影響が大きく、入込客数は目標値を下回ったが、各施設の積極的な取組により、目標に対して95.9%の入込客数を確保することができたため。
	令和2年度	—	理由	設定している指標「中山間地振興施設の入込客数」について、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の休館等が行われるなどし、入込客数が減少したため適正な実績値を測定することができなかったため、評価することができない。
	令和3年度	—	理由	—
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	367,750人	352,616人	95.9%	a	
中山間地振興施設の入込客数	363,000人 (平成30年度の実績)	2	372,500人	211,847人	56.9%	d	平成30年度 中山間地振興施設の入込客数 363,000人 ⇒ 毎年4,750人増を目指す。 ※中山間地振興施設 ①都市山村交流センター、②市営温泉、③レクリエーション、④登山関係(登山者、小屋利用者)	
		3	377,250人	—	—	—		
		4	382,000人	—	—	—		
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
指標以外の成果		2						
		3						
		4						
		1						

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
南アルプス周辺登山道整備事業	登山者の安全を確保する登山道、山小屋の修繕、工事等を実施 ・登山道修繕・工事（茶臼岳、聖岳、千枚岳 他） ・山小屋修繕（百閒洞山の家、熊野平小屋、高山裏避難小屋、ウソッコ沢小屋）	2	1	7,000	0	4,478	0.3	0.0	0.0	○
			2	155,000	0	36,422	2.0	0.0		
			3	—	—	—	—	—		
			4	—	—	—	—	—		
オクシズプロモーションの推進	総合情報サイト「オクシズ」の運用及び、中山間地域の魅力情報紹介ツールの作成、広告・イベント出展等による地域情報の発信により、交流人口及び定住人口の増加を図る。	1	1	8,276	0	7,785	1.0	0.0	0.0	○
			2	8,522	0	4,085	1.0	2.0		
			3	—	—	—	—	—		
			4	—	—	—	—	—		
市営温泉浴場保全整備事業	経年劣化の進行による損壊や機能低下が発生している各温泉施設の改修を行い、利用者の安全性確保と利便性、快適性の向上を図る。 ・梅ヶ島新田温泉浴場改修	4	1	0	0	0	—	—	—	○
			2	4,400	0	4,400	3.0	0.0		
			3	—	—	—	—	—		
			4	—	—	—	—	—		
おもてなし環境整備事業	オクシズの観光トイレ整備に係る測量設計、工事 ①新規建設 1件 葵区有東木 ②既設改修 1件 葵区柿島	3	1	39,380	0	16,010	0.8	0.0	0.0	○
			2	6,875	43,020	49,895	2.0	0.0		
			3	—	—	—	—	—		
			4	—	—	—	—	—		
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	新型コロナウイルスの影響により、3月は、ほとんどの施設が臨時休業となってしまった。今後の各施設の来館者の受入れと新型コロナウイルス対策の両立が課題である。	今後の新型コロナウイルスの動向に注視し、来館者が安心して訪れることができるよう、必要な措置を講じていく。
令和2年度	近年の登山ブームと新型コロナウイルス感染拡大に伴う山間地への新規訪問客増加による登山道及び山小屋に関するあり方を見直す必要がある。	登山道の安全確保と隣県自治体との登山案内看板の統一化に関する連携調整、新型コロナウイルス感染抑止のため、山小屋の衛生管理及び登山前の健康管理に関する注意喚起の明示や登山観光情報を強化する。
令和3年度	—	—
令和4年度	—	—

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	2 農林水産
----	--------

政策	4 多彩な地域資源をみがきあげオクシズ等の地域の活力強化を推進します
----	------------------------------------

施策	3 安心・安全な地域環境の整備
----	-----------------

施策の目的	野生鳥獣の増加、生息域の拡大による農作物被害が問題となっており、被害防止には農地への侵入対策や捕獲を行う必要があるため、侵入防止柵の設置への補助、及び鳥獣被害防止についての勉強会等を実施し、農家の主体的な取り組みを支援します。 また、林地の崩壊や土砂の流出から、市民の生命・財産を守るため、治山事業を実施します。
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価責任者	所属	経済局 農林水産部 治山林道課
	氏名	課長 小川 雅弘

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	「野生鳥獣防除面積」は、567haを実施し、ほぼ目標を達成することができた。 「治山工事の施工箇所数」は、11箇所を施行し、目標を達成することができた。 「南アルプスユネスコエコパーク地域内林道の管理瑕疵による人身事故件数」は、林道の維持管理の実施により目標を達成することができた。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	「野生鳥獣防除面積」は、643haを実施し、ほぼ目標を達成することができた。 「治山工事の施工箇所数」は、11箇所を施行し、目標を達成することができた。 「南アルプスユネスコエコパーク地域内林道の管理瑕疵による人身事故件数」は、林道の維持管理の実施により目標を達成することができた。
	令和3年度	—	理由	—
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（％）	評価	目標値の算出根拠
			1	2	3	4		
成果指標	野生鳥獣防除面積	398ha (平成29年度)	1	575ha	567ha	98.6%	a	野生鳥獣被害の対策として、最も効果を発揮する方法は、防除（防護柵の設置）であることから、従来どおり「野生鳥獣防除面積」を指標に設定するが、3次総前期において、当初の計画を上回る防除面積を達成したため、今後は飛び地となっている等の小規模な農地が主となるため、毎年75haを増加させることとし、目標値を設定した。
			2	650ha	643ha	98.9%	a	
			3	725ha	—	—	—	
			4	800ha	—	—	—	
	治山工事の施工箇所数	11箇所 (令和元年度)	1	11箇所	11箇所	100%	a	
			2	11箇所	11箇所	100%	a	
			3	11箇所	—	—	—	
			4	11箇所	—	—	—	
	南アルプスユネスコエコパーク地域内林道の管理瑕疵による人身事故件数	0件 (令和元年度)	1	0件	0件	100%	a	
			2	0件	0件	100%	a	
			3	0件	—	—	—	
			4	0件	—	—	—	
指標以外の成果								

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況	
							正規	非常勤	臨時		
野生鳥獣被害対策事業	①防護柵の設置に対する補助金交付、人里に野生鳥獣を近づけない草刈り・藪払いを行う緩衝地帯整備事業、被害防止目的捕獲許可や防除方法等についての勉強会の実施	1	1	141,309	0	132,934	3.0	0.8	0.0	◎	
			2	151,434	0	110,988	3.0	0.8			
			3	—	—	—	—	—	—		
			4	—	—	—	—	—	—		
市単独治山事業	①治山工事 11箇所の実施	2	1	76,000	0	74,302	3.0	0.8	0.0	◎	
			2	76,000	0	64,356	3.0	0.8			
			3	—	—	—	—	—	—		
			4	—	—	—	—	—	—		
井川地区林道及び東俣線ゲート管理	①井川地区林道管理業務の実施 ②井川地区林道の修繕及び崩土処理の実施 ③東俣線ゲート管理業務の実施 ④東俣線管理業務の実施	4	1	11,354	0	10,646	1.5	2.0	1.0	◎	
			2	11,526	0	38,578	1.5	3.0			
			3	—	—	—	—	—	—		
			4	—	—	—	—	—	—		
飲料水供給施設等整備費補助事業	①給水区域外において、一定数以上の住民が自ら運営する飲料水供給施設の新設、改良、修繕に要する費用の7割を補助する。 ②産官学連携による小規模水道の調査・研究に参加。 ③SDGs関連事業に参加し、中山間地における水の安定供給事業をPR。	3	1	34,000	0	34,000	0.4	1.0	0.0	◎	
			2	34,000	0	34,000	0.2	0.8			
			3	—	—	—	—	—	—		
			4	—	—	—	—	—	—		
			1								
			2								
			3								
			4								

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例 (◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	昨今の災害の激甚化に伴い、市民の防災意識が高まり、治山事業の要望が多く寄せられるが対応が追い付いていないうえ、現在の予算規模では、土砂流出に対して必要最小限の規模の施設しか設置できず、設置後数年で、土砂が堆積している。	要望への対応及び施設規模の拡大については、予算の拡充が望まれるが、箇所数を減じ、1箇所あたりの工事費を増額する。【11箇所⇒10箇所】
令和2年度	昨今の災害の激甚化に伴い、市民の防災意識が高まり、治山事業の要望が多く寄せられるが対応が追い付いていないうえ、現在の予算規模では、土砂流出に対して必要最小限の規模の施設しか設置できず、設置後数年で、土砂が堆積している。	要望への対応及び施設規模の拡大については、予算の拡充が望まれるが、箇所数を減じ、1箇所あたりの工事費を増額する。【11箇所⇒8箇所】
令和3年度	—	—
令和4年度	—	—

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	2 農林水産
----	--------

政策	4 多彩な地域資源をみがきあげオクシズ等の地域の活力強化を推進します
----	------------------------------------

施策	4 豊かな農林水産資源保護の推進
----	------------------

施策の目的	農地や林地など多彩な地域資源や農道・農業用水路等の関係施設の保全活動に地域ぐるみで取組むことにより、農林業の持つ公益的機能を維持・向上させながら、地域の活力を強化していきます。
-------	------------------------------------------------------------------------------------------

評価責任者	所属	経済局 農林水産部 農地整備課
	氏名	課長 木下一郎

（1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	成果指標である「農山村保全活動面積」については、農業従事者の減少や高齢化などにより令和元年度の目標値を下回ったが（916ha）、総合評価はA評価とする。
	令和2年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	成果指標である「農山村保全活動面積」については、活動を行う農業従事者の減少や高齢化などにより、前年度を下回る実績値となっており、目標値を下回り（893ha）、総合評価はB評価とする。
	令和3年度	—	理由	—
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	950	916	96.4%	a	
農山村保全活動面積	916ha (令和元年度)	2	950	893	94.0%	b	農山村保全活動面積は、各活動団体の申請後5年毎に更新が行われ、更新にあわせて活動面積の増減、又は活動団体の減が発生する。更新時における活動面積の減を抑えるとともに、活動面積又は活動団体の拡大を推進していく。指標は農山村保全活動団体による活動面積とする。	
		3	950	—	—	—		
		4	950	—	—	—		
		1						
成果指標			2					
			3					
			4					
			1					
指標 成果 以外の			2					
			3					
			4					
			1					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
多面的機能の維持・保全	①農業用施設の保全を実施する団体に交付金を交付 ②地域主体による活動を通じた維持管理を促進	1	1	41,454	0	38,152	0.9	0.0	0.0	○
			2	40,646	0	36,404	0.9	0.0	0.0	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
環境保全型農業の支援	①有機農業など環境保全効果の高い営農活動を行う農業グループに対する国・県との協調助成（H24～）	2	1	3,100	0	2,736	0.3	0.0	0.0	○
			2	4,755	0	4,102	0.3	0.0	0.0	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	なし	
令和2年度	農業従事者の減少及び高齢化による、活動団体が減少に歯止めがかからない状況にある。	目標値の見直しをしていきたい。
令和3年度	—	—
令和4年度	—	—